

放射線リスクコミュニケーション

相談員支援センターだより



放射線教育 (紙芝居) ご紹介

放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター (以下、放射線リスクセンター) は、放射線を正しく理解するための放射線教育の支援を行っています。

放射線教育は、福島県でも福島県外でも大切な教育の一つですが、既存の資料では、専門的な言葉や単位を用いた説明が多く、より分かりやすい資料や実習機材の充実が期待されています。特に、低学年向けの教材は少なく、授業を行うことが難しいとの声がよく聞かれることから、今回は当センターが制作した放射線教育の教材中から低学年用紙芝居について紹介します。

紙芝居は、テーマごとに3種類あり、放射線のことを初めて学習する児童が分かりやすく楽しく学べる内容になっています。



紙芝居に登場する主人公は、「もやもやくん」という、見た目はもやもやしているけど、頭の中がもやもやしているのは嫌いな知りたがり屋さんの子どものようなキャラクターです。



もやもやくんは、「これなあに?」「どうして?」と放射線のことを知りたがります。そんなもやもやくんに優しく放射線のことを教えてくれるのが、



※「天の声さん」イメージ

姿が見えない「天の声さん」です。



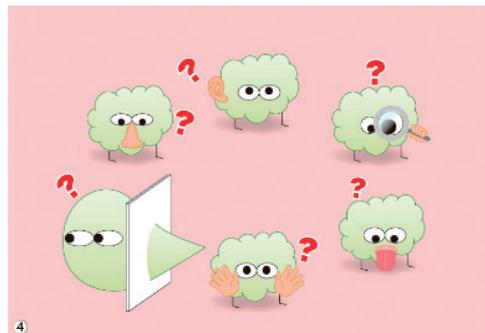
ほうしゃで〜す!

また、目には見えない放射線を「ほうしゃくん」というキャラクターで表現しています。ほうしゃくんは、放射線のように紙芝居中を飛び回っています。

大人でも難しいと感じる放射線のことを分かりやすく教えてくれるキャラクターが活躍する3種類の紙芝居について、それぞれの内容を説明します。

【紙芝居①「ほうしゃせんってなあに?」】

紙芝居①は、放射線の基礎についてのお話です。



見えなくて、聞こえなくて、におわなくて、味もなく、触れなくて、ものを通り抜ける「それ」が気になってしょうがないもやもやくん。天の声さんから、「それは放射線というものであり、宇宙が生まれて地球ができた時からずっとあることや、レントゲン検査に使われたり、電気にかかわりがあることを教えてもらいます。当たり前にあつて、便利な放射線ですが、気を付けれ

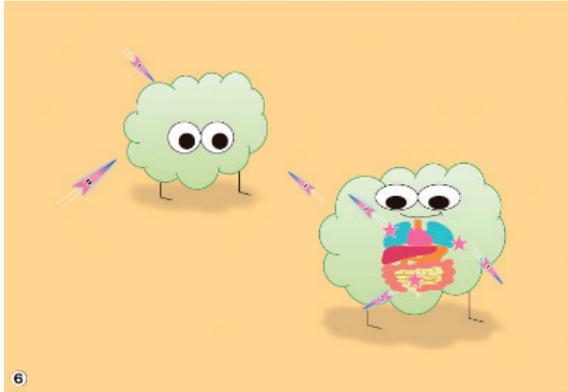


なければならないこととして、福島第一原発事故の話から、放射線は量が多すぎると危ないことを学びます。

🌱 キーワード「なんでも おおすぎると あぶないです。」

【紙芝居②「もつとしりたい ほうしゃせん
～ほうしゃせん と からだのこと」】

紙芝居②は、放射線の体への影響と放射線から身を守る方法についてのお話です。



放射線が体を通り抜ける時に、体ではどんなことが起きているのだろうと、もやもやするもやもやくん。天の声さんから、放射線は体を傷つけることや私たちの体にある治す力について教えてもらいます。そして、放射線で受けた傷があまりにも多すぎると治す力が間に合わないことも知ります。

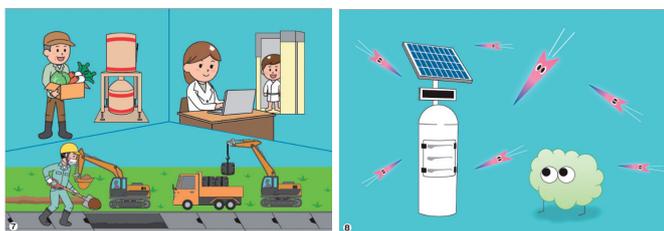
放射線が多すぎるときには、どんなことに気をつければいいのか知りたがるもやもやくんは、放射線から身を守る方法として、体の外から受ける放射線を減らす方法を学びます。



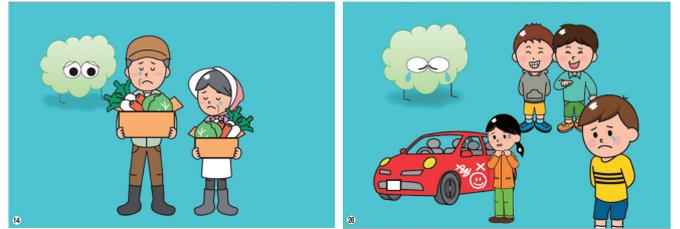
🌱 キーワード「ほうしゃせんから じぶんをまもる ほうぼうがあります。」

【紙芝居③「もつともつとしりたい ほうしゃせん
～あんしん あんぜんへの とりくみ」】

紙芝居③では、原子力発電所事故後に安心して生活ができるよう取り組まれていることについてのお話です。



原子力発電所事故でいろいろなところに落ちてしまった放射線を出すものはどうなったのか気になっている、相変わらずのもやもやくん。天の声さんから、放射線を測定するモニタリングポストのことや、地面等に落ちてしまった放射線を出すものの行方を教えてもらいます。しかし、様々な取り組みが行われているにもかかわらず、放射線のことを怖いと思う人がいて、福島県で採れたお米や野菜を買ってもらえなくなったことにショックを受けます。



そもそも、放射線はウイルスのようにうつるものなの？勉強すればするほど、もやもやは増えますが、大丈夫です。天の声さんから、福島県で採れた食べ物はきちんと検査されていることや、放射線はうつらないことを詳しく教えてもらいます。



もやもやくんは、放射線のことを正しく知ることも安心して生活することへの取り組みに繋がることを学びます。

🌱 キーワード「ほうしゃせんは 人から人へ うつりません。」



これまでは、当センターの職員が紙芝居の読み手を務めてきましたが、最近では、毎日児童と接する教員が読み手を担当することが増えてきました。紙芝居は、児童に質問したり、クイズを出題したり、ポイントとなる言葉をみんなで読み上げたりと参加型になっているため、児童の性格をよく知る教員が読み手を務める

ことで、より児童の関心を引きつけることができます。紙芝居は低学年向けに易しい内容で、会話形式の読みやすい構成となっており、放射線教育の当日まで貸し出しも行っております。なお、放射線教育の当日は、専門家を派遣し、紙芝居後に児童からの質問等に対応することも可能です。

また、当センターでは、教員や保護者向けの放射線に関する勉強会も実施しております。子供たちにとって身近な大人たちが放射線の知識を身につけ、理解を深めることが、子供たちが放射線のことを正しく知ることに繋がるのではないかと思いますので、ぜひ当センターをご活用ください。



放射線相談に活用できる『支援ツール』のご紹介

○『支援ツール』とは

放射線に関する情報について、今やインターネット上ではどこを見たらよいのか迷うほどの情報があふれており、知りたい情報をスムーズに得ることが難しいという状況にあります。

『支援ツール』は、一般の方や自治体職員及び相談員の方々にとって、放射線に関する不安や気がかりを解消するための一助となる情報、放射線の相談等に役立つと考えられる情報を、放射線リスクセンターのホームページ内に分かりやすく整理したものです。また、支援ツールを閲覧・活用される方にとって、より親しみやすく使いやすい内容とするため、今年3月に支援ツールの改訂を行いました。改訂にあたっては、当センターの支援活動に携わる専門家や有識者、自治体職員や相談員等の多くの方々から寄せられたご意見・ご要望を反映しています。



以下、コンテンツ改訂に関する情報や支援ツールの内容等について詳しく紹介していきます。



○支援ツールの内容及び改訂に関する紹介

支援ツールでは、放射線の情報「自治体職員・相談員用」・「一般説明用」・「地域の情報」・「動画の情報」の4つに分類しています。

「自治体職員・相談員用」では、自治体職員や相談員の方々が放射線に関する情報を詳しく調べたい場合に役立つ内容を紹介しています。

「一般説明用」では、自治体職員や相談員の方々が放射線についてご存じない方に分かりやすく説明する場合や、一般の方が初めて放射線について調べたい場合に役立つ内容を紹介しています。また、「自治体職員・相談員用」・「一般説明用」の内容は、それぞれ『よくある質問』と『項目別の情報』に分けられており、相互移動できるようになっているため、その中から自分が必要としている情報を調べることができます。

「地域の情報」では、『福島県及び国』や『県内中核市』、『避難指示があった12市町村』における、放射線に関する各種の情報を紹介しています。今回のコンテンツ改訂にあたり、『その他の浜通りの市町村』を追加し、新たに「相馬市」及び「新地町」の情報を掲載しました。また、『福島県及び国』において、新たな情報提供として「森林の状況」を追加しました。「森林の状況」では、森林の除染状況や森林内における放射性物質調査結果等に関する情報を調べることができます。

森林の状況	
▶ ふくしま復興情報ポータルサイト 森林内における放射性物質調査結果等について	新着
▶ 環境省 除染情報サイト 森林の除染等について	新着
▶ 復興庁 里山再生モデル事業	新着
▶ 国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 根拠情報Q&A 放射性物質の動きー森林	新着



「動画の情報」（コンテンツ改訂にて新たに追加された項目）では、放射線の基礎や健康影響、ALPS 処理水について等の項目別に分類し、放射線に関する情報について分かりやすくまとめた動画を掲載しています。

また、支援ツールのトップページに「農林水産物にかかわる情報サイトリンク」のコーナーを設け、旬の食べ物の情報を調べやすくしました。福島県内の農林水産物における放射性物質の最新の検査結果を調べることができるリンクを、支援ツール内からピックアップして掲載しています。

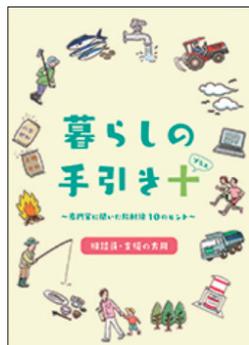
農林水産物にかかわる情報サイトリンク

- ▶ [福島県 福島県農林水産物・加工食品モニタリング情報](#) 
農林水産物の放射性物質の検査結果が掲載されています
- ▶ [ふくしまの恵み安全対策協議会 ふくしまの恵み 現在の検査状況](#) 
農林水産物の放射性物質の自主検査結果が掲載されています



○『暮らしの手引き』『暮らしの手引き+（プラス）』について

放射線リスクセンターでは、福島県内において放射線不安等に関する住民相談対応等にあたる自治体職員や相談員等の方々へ向けた『暮らしの手引き』と『暮らしの手引き+（プラス）』を作成し、ホームページで公開しています（トップページ）暮らしの手引き。今回、本手引きを便利に使いこなすことができる「ページ移動」の機能について掲載しましたのでご活用ください。『暮らしの手引き』と『暮らしの手引き+（プラス）』は、生活のフェーズに合わせたアドバイス、ヒント集を分かりやすくまとめたものです。生活関連の放射線に関する疑問、相談等の際に、ぜひ手に取ってリスクコミュニケーションツールとしてお役立てください。



←支援ツールトップページ QR コード

メールマガジン 「放射線リスクセンター通信」 のご案内

放射線リスクセンターでは、自治体職員や相談員等の皆様の活動に役立つ情報や最新の福島状況等を共有するため、メールマガジン「放射線リスクセンター通信（以下、リスク通信）」を通じた広報活動を行っています。

リスク通信では、自治体職員や相談員等の皆さまに活用してほしい当センターの活動内容や、住民の放射線に関する健康不安等への対応及び放射線が関連した生活上の様々な課題への対応に役立つ情報に加え、福島県にある震災伝承施設や研究施設等が開催する様々なイベントに関する情報を定期的に配信しています。

メールマガジンの配信をご希望の方は、下記連絡先に、必要事項と併せてご連絡ください。また、現在メールマガジンをお読みの皆さまからの情報もお待ちしております。

【連絡先】

放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター
電話：0246-35-5150
メール：F-sodan@nsra.or.jp

【必要事項】

- お名前
- 所属・役職等
- 電話番号
- メールアドレス



放射線リスクコミュニケーション相談員支援センターだより No.40

発行：放射線リスクコミュニケーション相談員支援センター

連絡先：〒970-8026 いわき市平字小太郎町1-6

いわきセンタービル5階

フリーダイヤル：0120-478-100

FAX：0246-35-5158

E-mail：F-sodan@nsra.or.jp

